10.5.19

第11回 記者懇談会実施要項

1　開催日時　平成10年５月19日（火）
　　15時から

2　場　　所　100 周年記念会館第２会議室

3　懇談内容

（1）若手研究者の研究テーマとその成果の中間発表（１５時～１５時３０分）

○社会学部教授　土田　昭司
研究テーマ「日本人のリスク認知について」
（資料１）

○工学部助教授　楠見　晴重
研究テーマ「岩盤斜面の崩壊機構に関する研究」
（資料２）

（2）学内情報（１５時３０分～１６時）

① 1999年度　入学試験概要　（資料３）
② 平成10年度　科学研究費補助金採択情況　（資料４）
③ 平成10年度　関西大学重点領域研究採択情況　（資料５）
④ 第２部入試改革
⑤ 秋の人権啓発行事
⑥ 平成10年度　文部省「学術フロンティア推進事業（人文・社会科学分野）」
（資料６）
⑦ 「スクールカウンセラー」

（3）情報交換（１６時～１６時３０分）

4　関西大学の出席者

石川　啓　学長
浦上　忠　教学部長代理
土田昭司　社会学部教授
楠見晴重　工学部助教授
岩村　護　企画室長
荒木紀忠　広報課長

5　配布資料

① 『平成９年度　学生生活実態調査報告書』
② 『人権を考える　1998. 春』
③ 高槻キャンパス・オープンキャンパス
④ 公開講座（吹田市民大学・おおさか文化セミナー）
⑤ 『KU　SCRAPBOOK　Vol. 4』
⑥ 北條秀司著『信濃の一茶　火の女』
⑦ 『関西大学通信』　第262号・第263号

以上

日本人のリスク認知についての社会心理学的研究

社会学部　土田昭司

規制緩和と自己責任が強調される今日、人々が身のまわりにあるさまざまなリスクをどのように認知しているのか、あるいはまたそれらをどのようにして受容／拒否するのかを明らかにすることは、きわめて重要な社会心理学的課題となってきた。実際には普通に道を歩いていても事故に遭う確率が決してゼロであることがないように、私たちの生活には何らかの危険が伴っている。私たちが何らかの行動をおこそうとするときには、無意識的にせよ意識的にせよ、その行動から得られる利益とそれに伴う危険とを勘案して、その行動をおこすべきかどうかの意思決定をしているはずである。ところが、日本人には自分の生活には危険が全くないと信じている人が多いと思われる。私の研究は、リスク認知と意思決定についての人間の心のメカニズムを社会心理学の立場から明らかにすることであるが、今回は特に日本人のリスク認知についての説明を申し上げたい。

土田（つちだ）　昭司（しょうじ）
教授

山形県出身。東京大学文学部社会心理学専修課程を1980年に卒業。その後、同大学院に学び、大阪大学人間科学部助手、明治大学文学部助教授などを経て、97年に本学教授として着任した。

専攻は、社会心理学で、特に社会的状況における人々の判断や意思決定の心理的メカニズムを態度構造理論として研究。態度構造の基礎研究とともに、それを応用する具体的な研究フィールドとして、購買意思決定などの消費行動研究、原子力利用などのリスク判断・受容についての世論調査研究や提言を行っておられる。

人柄は温和で、人好きのするお顔のとおり優しい性格である。趣味は、山歩きとドライブとスキー。暇をみつけては散策を楽しんでおられる。

所属している学会

日本社会心理学会
日本リスク研究学会
Society for Risk Analysis
日本消費者行動研究学会（理事）
日本心理学会
日本グループ・ダイナミックス学会
日本行動計量学会
日本認知科学会
日本社会学会

社会的活動

厚生科学研究費による「ＨＩＶの疫学と対策に関する研究」研究班員（現在に至る）
原子力委員会「高レベル放射性廃棄物処分懇談会（特別会合）」参加メンバー（現在に至る）
環境庁委託調査「大気環境基準等設置調査」分担研究者（現在に至る）
(社)日本原子力産業会議，「原子力に関する意識分析委員会」委員（1996年1月まで）
第１０回国際エイズ会議，「プログラム委員会」委員（1994年8月まで）

岩盤斜面の崩壊機構に関する研究

工学部土木工学科　楠見晴重

概要

岩盤斜面には、節理、層理、片理、断層、破砕帯などの不連続面が存在し、これらは岩盤斜面の安定性ならびに透水性を支配しており、岩盤斜面の破壊や崩壊は不連続面の特性および亀裂内の地下水挙動に左右される場合が多い。しかしそれらの特性については、未解明な部分が多く残されている。例えば、平成８年２月に起きた、北海道豊浜トンネル事故は岩盤斜面に潜在している不連続面から崩落したものとされ、そこには地下水の存在が認められている。本研究は、岩盤斜面の安定性を左右する不連続面に関して、不連続面形状と変形特性との関係を明らかにし、不連続面に起因した岩盤斜面の崩壊に至る機構について、岩石供試体を用いて検討を行っている。更に岩盤斜面内の地下水挙動について、実際の斜面を対象として、斜面内の電気抵抗を連続的に計測することによって、斜面内の破砕帯内の地下水挙動と降雨との関係について検討を行い、降雨に伴う破砕帯内の地下水挙動を明らかにしようとしている。これらのことから、岩盤斜面の防災ならびに予知技術の発展に寄与することを目指している。

楠見（くすみ）　晴重（はるしげ）
助教授

1980年関西大学大学院博士前期課程修了。引き続き同後期課程に進まれ、82年助手、87年専任講師、90年助教授に昇格。専門は岩盤力学、地盤工学、地下水工学。85年工学博士の学位を取得された。専門は岩石の強度特性や岩盤構造物の安定問題等に関して研究され、土木学会、地盤工学会、日本材料学会、国際岩の力学学会等で専門委員会委員や幹事として活躍しておられる。90年度在外研究員として、英国Imperial CollegeのHudson教授のもとで岩盤の強度に関する研究に１年間従事された。この間、スイスアルプス山中にあるGrimsel岩盤工学研究所に短期滞在された折、その合い間に撮られた美しい山々の写真を研究室に飾っておられる。学生時代はスポーツは万能で、特にスキーは八方尾根の常連であったらしいが、最近では、忙しくてほとんど行っておられないようである。酒は強い方ではないが、飲む程に陽気になられるタイプとお見受けした。

現在の学協会における主な活動

- 土木学会　岩盤力学委員会斜面安定小委員会委員
- 土木学会関西支部　トンネル切羽前方探査技術および地盤評価手法の確立に関する調査研究委員会委員兼幹事
- 地盤工学会　地震時の斜面の不安定化メカニズムと設計法に関する研究委員会主査委員
- 地盤工学会　亀裂性岩盤における浸透問題に関する研究委員会委員
- 地盤工学会関西支部　評議員
- 日本材料学会　岩石力学部門委員会委員兼幹事
- 岩の力学連合会（国際岩の力学会日本支部）専門幹事兼編集委員会委員
- 物理探査学会　編集委員会委員